

《参考》

◇庵治産地石製品



高松市の東部に位置する五剣山の麓、牟礼町、庵治町で採掘される良質な花崗岩は「庵治石」と呼ばれます。採石の歴史は、遠く平安時代にまでさかのぼり、江戸時代に高松藩の御用丁場となったことから急速に発達しました。彫刻家イサムノグチに絶賛されたことで世界的にも高い評価を得て、現在も200社あまりの業者が軒を連ねます。

伝統工芸士認定者数:22名(R8.2.24現在)

◇讃岐一刀彫



肥松や楠に、大胆さと繊細さが調和したノミの刃跡を活かして仕上げる讃岐一刀彫。天保8年(1837年)、金刀比羅宮の旭社建立時に、全国から集まった宮大工が、彫の腕を競い合ったのが始まりと言われます。その技術が明治30年ころに開校された琴平工業徒弟学校の彫刻科にも伝承され、こんぴら参りの土産品として広まりました。

伝統工芸士認定者数:9名(R8.2.24現在)

◇讃岐かがり手まり



手まりは、平安時代に中国より伝えられたと言われており、子供の遊び道具として愛され、時代を経るうちに我が国独特の美しい文様が考案されました。香川の手まりは、讃岐三白(塩、砂糖、綿)のひとつ、綿の糸を草木染めし、ひと針ひと針かがりながら、艶やかな幾何学模様を描き出します。

伝統工芸士認定者数:10名(R8.2.24現在)

◇香川漆器



江戸時代に高松藩主である松平家が、茶道・書道に付随して振興・保護したのが始まりです。江戸後期には、香川漆器の始祖と言われる玉楮象谷(たまかじぞうこく)が、中国伝来の漆技法に独自の技を加えて新しい手法を創案。現在まで受け継がれ、蒔醬、存清、彫漆、象谷塗、後藤塗の5つの技法は、国の伝統的工芸品に指定されています。

伝統工芸士認定者数:20名(R8.2.24現在)